

沢登りデビュー・・・丹沢・葛葉川

2008年6月1日(日) TimTam沢登り教室

1. 目的

(TimTam沢登り教室) 沢登りデビュー。

いろいろケチが付き計画3回目で実現です。どれをどれだけ持って行けばよいかいまいち判断できず面倒なので全て積み込んで出発です。

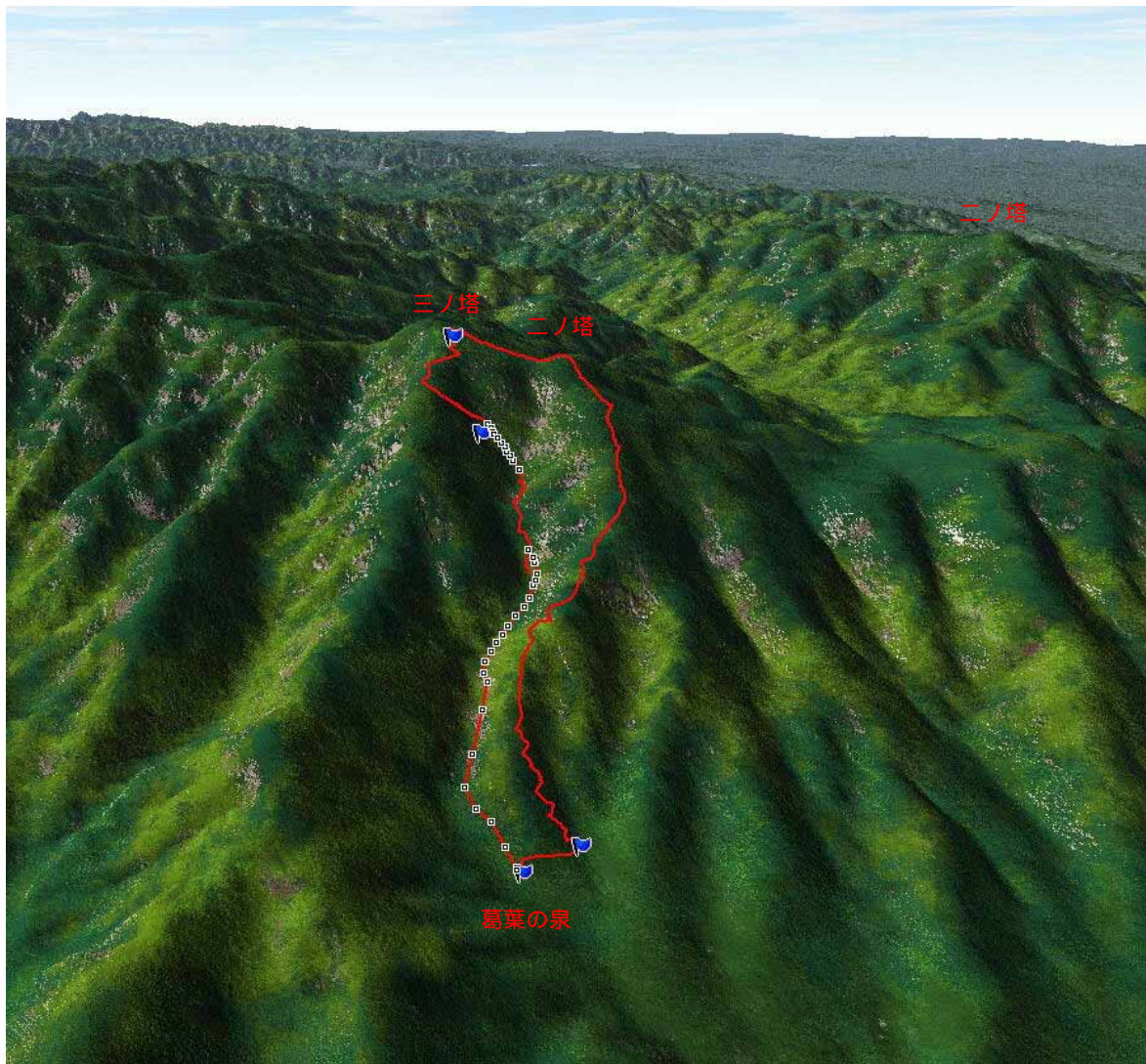
2. 概要

葛葉川を葛葉の泉から入渓します。(入渓??? 釣り用語だなぁ)

葛葉の泉 三の塔(ヤビツ方面) 二の塔(菩提方面) 葛葉の泉

3. カシミール3DのGPSトレース

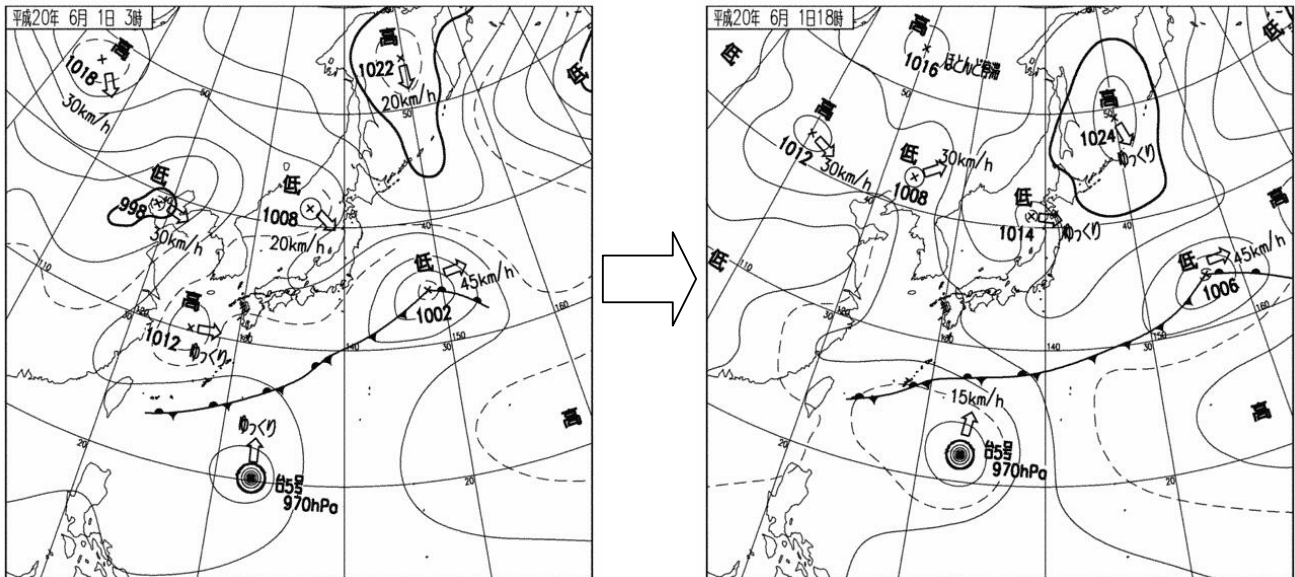
GPSの電源onを忘れ沢から尾根筋へつめるまでは地図上をトレースしました。もっとも沢ではGPSはサテライトをロストしているはずですが。



4. タイムテーブル

9時頃かなあ・・・	葛葉の泉 出発（時間はメモっていません）
12時18分	沢終了 所用時間 3時間18分 標高差 600m
12時53分～13時15分	三ノ塔休憩 所用時間 3時間53分 標高差 800m
13時27分	二ノ塔
14時05分	林道
14時45分	葛葉の泉

5. 天気図



6. 記録

準備

丹沢にはあちこちに湧き水があります。「表丹沢野外活動センター」の近くにある「葛葉の泉」もその一つです。6時に家を出発したしかこのあたりだったよなーと7時過ぎに到着すると既に沢登り目的の人達が支度をしてました。彼らの服装と装備を見て見ぬふりをしながら観察します。明らかに沢慣れした人たちはビレイループの無い簡易ハーネス（アルパインポットハーネス）着けています。実は以前にこれ買ったんです。購入時にビレイループの部分に安全環付きカラビナを前後逆の入れ子の形で必ず2個装着してくれと念をおされた事を思い出します。今回、岩登り用は車の中に置いてこのハーネスを装着しました。8時30分過ぎてからみなさんがタクシー等で到着して来ました。



山里を流れる葛葉川



某メーカーの沢登りシューズです。(親指が独立している地下足袋タイプ派とシューズ派に分かれるそうです。長所短所の理由は理解しきれませんでした。)足首を入れる入り口がネオプレンゴムなので一苦労します。(靴べらがあるといいんじゃないかなあ)お店の人が言うにはこれは靴の中に砂が入り込まない様にするためののだそうです。ふむふむ……。まあ何が真の目的が何なの分かりませんが(聞くのが恥ずかしい)溪流スパッツなるものも購入してしまったので周りの人たちの真似をして服装を整えるとスタイルだけは沢屋となりました。



葛葉の泉の入渓ポイントです。



ブリーフィング

初体験



なんの前ぶれも心の準備もなく未体験ゾーンに突入します。水が入る構造の靴であることは予め分かっていたのですが・・・水際に靴を浸けた途端・・・ジワッ・・・登山靴なら発狂するであろう水の進入による違和感と同時にドコドコと水の中を進むことが出来る奇妙な感覚が入り交じる初体験でありました。



道迷いでこの場所に立った時・・・体力的に登り返すことも困難で左右が岩壁であるとして・・・はたして自分はどのような行動を選択するのであろうか・・・そんなことを考えていたらみんさんはさっさと先に行ってしまいました。



ぐるっと回って生木への支点

エイト環の確保







右側をトラバースぎみに登った時に
「奈良の春日野」発見です。
腰を降ろせば・・・シカのフン
フンフンフン・・・黒豆や～
フンフンフン・・・黒豆や～

ここを鹿が徘徊しているということは・・・
・・・いる・・・山ヒルはいる・・・確実に・・・
昨日の雨と気温の上昇の好条件。
上から降ってこないことを祈るだけえー。
と思っている矢先にやはりいました。エイト環に付
いてそうです。
「神は何故この生物を創ったのであろうか」

6～11月まで東丹沢は気が滅入る。
自分にとってライター／山ビルファイター／塩は必
携。でも山ビルファイターは沢登りには効果ないだ
ろなぁー。

7. 気付いた点／反省点

- (ア) フェルト底のクツは滑りにくいが滑る時は滑る。
- (イ) 予想通りGPSは使えない。ただし、沢筋というのは出会いに注意していれば
地図と高度計だけでだいたい位置を特定出来ることが分かった。メモを取ることをしなかったのは×。
- (ウ) 情報収集不足。Tさんにトポ図を頂き沢のガイドブックがあることを教えていただいた。購入しようかな。
- (エ) 沢から稜線に出る間は急登で注意を要する。
- (オ) 意外に人が多い。
- (カ) 落差のある滝の水流の圧力は思っているより重ぁーい。

おしまい